

福島県棚倉町教育委員会

町ぐるみのキャリア教育の推進

～体験・評価・保幼小中高の連携を通して～

はじめに

棚倉町は、福島県、栃木県、茨城県の三県の境に位置する八溝山麓に広がる城下町である。人口は13,499人、面積は159.93km²。町内には、4つの小学校と1つの中学校がある。(令和4年1月現在)



本町の位置

本町では、小学生の職業体験活動「チャレキッズ」などを充実させると共に、早期から資質・能力の育成に目を向け、自己マネジメント力を育成するよう実践してきた。また、キャリアパスポートなどのポートフォリオ教材についても先行して実施してきた。

本稿では、棚倉町教育委員会が主導してきたキャリア教育の取組を、体験活動の実施、資質・能力の指導と評価、校種をつないだ資質・能力の育成、保幼小中高の連携の点から報告する。

1. 資質・能力の育成 - 「ほめポイント」 -

キャリア教育で身に付ける4つの基礎的・汎用的能力「自

己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」は、自己を理解し、他者や社会に関わり、目の前の課題を解決し、自己の将来へ目を向けていく力である。

仕事に就くことに焦点を当て、実際の行動に現れる観点から4つの能力に整理した。

「人間関係形成・社会形成能力」

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

「自己理解・自己管理能力」

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

「課題対応能力」

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

「キャリアプランニング能力」

「働くこと」の意義を理解し、自らは果たすべき様々な立場や役割との関係を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」25～26頁
平成23年1月31日中央教育審議会

基礎的・汎用的能力(中教審答申より)

(1) 資質・能力の「具体化」「重点化」

本町の特徴的な取組としては、育てたい資質・能力を教師が重点化して、児童・生徒に意識させ、「ほめポイント」の形で具体化し、教師間や保護者等で共有して、全教育活動を通して育成することが挙げられる。

「資質・能力の重点化」

四半期ごとに育てたい資質・能力の設定

学年	つく・つばさ	1年	2年	3年	4年	5年	6年
重点化した資質・能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	人間関係形成・社会形成能力
学年テーマ	進んでやってみよう!	さいにまであきらめないでがんばろう!	さいにまであきらめないでがんばろう!	やってみよう!あきらめないで	がんばりつつつづけよう!レベルアップ	とにかくトライ!一歩みずき勇気をつい!輝きそうい!輝きそうい!輝きそうい!	「ほめポイント」自分たちのスクラム!!その先には...

第3四半期
育てたい資質・能力の一覧表

「ほめポイント」として
見取ったらみんなで認めほめる

棚倉小学校での四半期制

上図のように、棚倉町立棚倉小学校では、前期（本町小学校は二学期制である）をさらに半分にした四半期制を設定し、3ヶ月ごとに資質・能力の評価サイクルを回している。

(2) キャリアパスポートによる「共有化」

○キャリアパスポートの活用⑥

**教務主任が
つなぐ**

通知表とキャリアパスポート

○通知表の学校と家庭の通信欄をキャリアパスポートが担うことで、これまで2回だったやりとりが、4回可能となる。
すなわち・・・

**RVPDCマナジementサイクルを4回実践できることとなる
(児童は3回改善できる)**

↓

成果と課題を積み重ねていく

自ら学ぶ

社川小学校での「共有化」

上図のように、棚倉町立社川小学校では、「ほめポイント」による指導の成果をキャリアパスポートに担任のコメントとして掲載した。それを保護者と共有することで、通知表の所見欄の機能をキャリアパスポートが果たすようにして、年2回の通知を年4回知らせ、子どものよさを伝えることができた。結果的に働き方改革にもつながっている。

2. 体験活動 —職業体験とふるさと学習—

総合的な学習の時間だけでなく、生活科の町探検や社会科の見学学習など、働く人の姿に触れる機会を大切にしている。

(1) 小学生の職業体験「チャレキッズ」

本町では、中学生の職場体験活動に加えて、平成26年度より小学生の職場体験活動「チャレキッズ」を実施している。町内の事業所の協力を得て、小学校第5・6学年で取り組んできた。教育課程に位置付け授業日に実施している。



チャレキッズ6年参加事業所



チャレキッズ（書店でのポップづくり）

町内の企業や商店について体験したことを共有し、地域社会で働く人の姿について理解を深め、中学校での職場体験につなげている。

(2) 役場から民間企業へ

小学校第4学年の総合的な学習の時間は、2回の役場見学に取り組んだ事例がある。

第1回目の見学では、「役場で働く人の仕事を知る」「役場で働く人と仲良くなる」ことを目的として実施した。事後のまとめで「課と課のつながり」「お金の出所」「町のために働く意義」などの新たな疑問が生じた。



役場見学4年（2回目）

2回目の見学では、役場職員の仕事について理解を深め、町民のために働くことの意義を自分なりに理解でき、民間企業ではどうかという新たな追究につながったのである。

**授業の様子 ～A児の姿を通して～
「自分のため」から「他の人のために」へ**

T : アンケートしたよね。一番多かった言葉って何だと思う？
 全員：お金か・・・。
 A児：A児のワークシート「野菜のお金。子どものため」
 -中略-
 T : どの課で働いてみたい？
 A児：(各グループの手作りのパンフレットをじっくり見ながら)
 「子ども教育課。理由：いじめとけんかがなくなるようにしたいから町にしたいから」とワークシートに書く。
 -中略-
 T : (本児のワークシートの理由を指さして)
 これ、パンフレットに書いてあったの？自分で思ったの？こういう人になってほしいなあ、先生。
 T : それでは、書いたこと発表してください。
 A児：(手を挙げ、指名され、発表する。ワークシートに書いたことを発表する。声は小さいが、発表したい気持ちが伝わる)
 -中略-
 T : 働くことのよさについて、書いてみよう。
 A児：「自分が楽しくて、自分に向いていたり、人のため、地域の人の誰か(のため)は、自分のためになるから」とワークシートに書く。

事後の授業における対話

さらに、役場職員への事後のアンケートでは、「自己の職務を見直す機会となった」「自己の職務への意欲を高めた」と全体の45%が回答し、職員にもよい影響を与えたのである。

3. 資質・能力の評価 —指導に生かす—

資質・能力を評価し指導に生かしている。

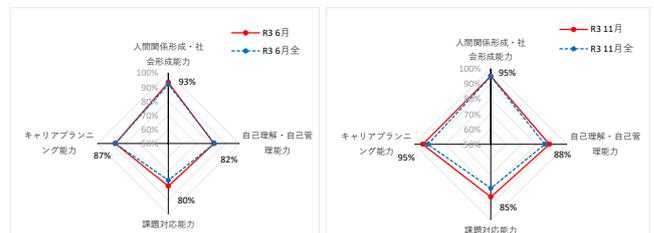
(1) キャリア教育意識調査

本町の特徴的な取組に「キャリア教育意識調査」がある。これは、児童・生徒を対象としたアンケート調査によって、「基礎的・汎用的能力」の傾向を把握する取組である。4つの能力について四項目ずつが設定されており、それを4件法で回答するものである。(詳しくは、日本キャリア教育学会編『新版キャリア教育概説』東洋館出版 2020年 165～167頁参照)

調査結果は、学力とも相関があることが確認されており、6月と11月に実施し、6月の結果を基に個に応じて指導している。同時期にQUテストも2回実施しており、その結果と併せて集団生活への適応という点からも、個に応じた指導がなされている。

社会関係形成能力	1	相手にわかりやすいように、自分の考えや気持ちを伝えようとしている。
	2	友だちと話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
	3	人が困っているときは、進んで助けている。
	4	学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
自己理解・自己管理能力	5	自分の短所はなおし、長所はさらに伸ばそうとしている。
	6	授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたい。
	7	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
	8	自分にはよいところがあると思う。
課題対応能力	9	わからないことやもっと知りたいことがあった時、調べたり、人に聞いたりしている。
	10	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。
	11	授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
	12	授業で学んだことを、ほかの学習や生活に生かしている。
キャリアプランニング能力	13	将来の夢や目標を持っている。
	14	勉強をするとき、自分で考えて計画を立てている。
	15	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。
	16	人の役に立つ人間になりたいと思う。

R3 6月 → R3 11月 棚倉中 1年 全体との比較

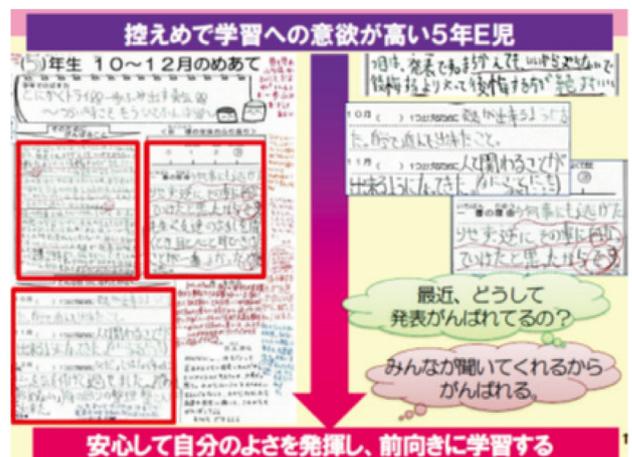


	R3 6月	R3 6月全	増減		R3 11月	R3 11月全	増減		
1	人間関係形成・社会形成能力	93%	92%	1%	1	人間関係形成・社会形成能力	95%	95%	0%
2	自己理解・自己管理能力	82%	82%	0%	2	自己理解・自己管理能力	88%	85%	3%
3	課題対応能力	80%	76%	4%	3	課題対応能力	85%	79%	6%
4	キャリアプランニング能力	87%	87%	0%	4	キャリアプランニング能力	95%	91%	3%

調査項目と調査結果

(2) キャリアパスポートの活用

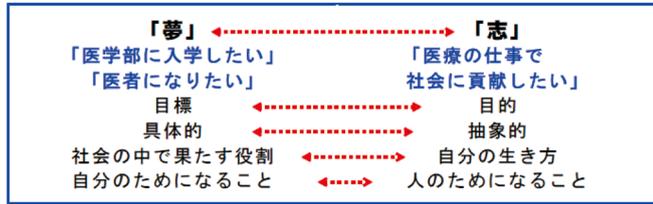
本町では、児童が活動を記録し蓄積する教材(キャリアパスポート)を最大限に活用している。活用のポイントは、「振り返る」「学年や校種をつなぐ」「自己理解や児童理解を深める」ことにある。資質・能力を育成するためには、振り返って成長を確認し、よさを継続して称賛することで、自己の成長を肯定的にとらえさせることが必要である。



安心して自分のよさを発揮し、前向きに学習する
キャリアパスポートの活用(棚倉小学校)

のように整理すると、目標が達成できなくても、目的が明確であれば次の目標を設定できることに気付く。

夢や志を持つ



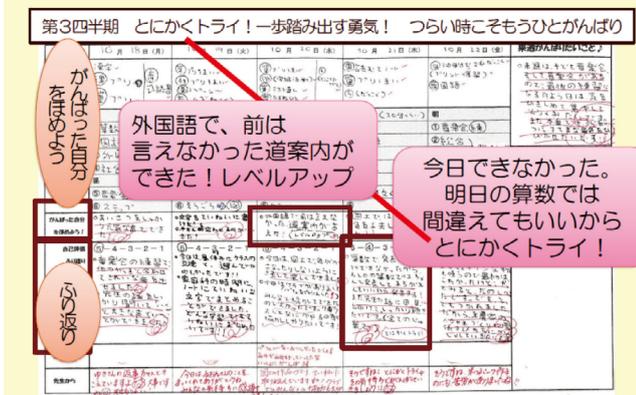
「夢」と「志」について

自己の将来を様々な視点から考え、それを集団の構成員（学級の仲間）や教師と共有する。肯定的に受け止めてもらえたなら、意欲は高まり、今の学びを将来につなげやすくなるであろうと思われる。中学校では、第2学年後期に行う「立志式」を中心に総合的な学習の時間と学級活動を関連させた「志」を育成するカリキュラム・マネジメントを実践している。

おわりに

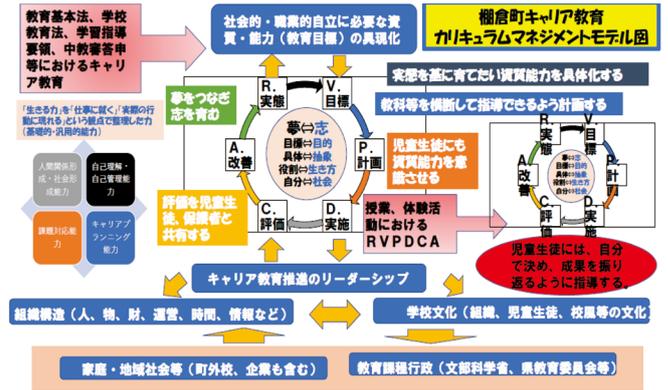
学習計画表（スケジュール表）の作成による自己マネジメント力の育成や町内の県立修明高等学校の課題研究発表会への中学生の参加などの学びでつなぐ中高連携など述べ足りないことも多い。別な機会があれば報告したい。

学習計画表の活用による自己マネジメント力の向上



学習計画表の活用（柵倉小学校）

今後の方向性は、次の通りである。



カリキュラム・マネジメントモデル図

- 文部科学省委託の「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」に取り組み「持続可能な地域社会の創り手」を育成する。
- キャリアパスポートを最大限に活用し、教師や保護者、地域住民が対話的に関わり、保幼小中高を通した資質・能力の育成に努める。
- 授業では、カウンセリングの手法により、対話的な関わりで肯定感や有用感を高める。



対話的な関わりで資質・能力を育成する授業

対話的な関わりにより、子ども自身が自覚していない成長や変容に気付かせたり、一人一人が自らの成長を肯定的に認識できるように働きかけたりすることで、資質・能力は育成される。そのためにも、育成すべき資質・能力を重点化・具体化して指導する「ほめポイント」の考え方に基づいて、今後も教育活動を展開したい。